

2022年度事業計画

学校法人 沖永学園

1. 学園の現状と基本方針

沖永学園は、創立以来社会のニーズに応えるため組織の設置・改善を重ね、現在では短期大学1・高等学校1・中学校1・幼稚園2を擁している。「礼儀・努力・誠実」を建学の精神とし、帝京大学グループとしてのメリットも生かしつつ、人格を磨き社会で役立つ実学を重視する。

2. 教育研究に係わる課題と方針

(1) 帝京短期大学

①生活科学科

<生活科学専攻生活文化コース>

社会性の育成については、経済産業省の「社会人基礎力」を演習においてワークショップにより深め、地域貢献の体験を裏付けとしたプレゼン発表を実施し、検定やコンテストに繋げていくよう指導する計画である。インターンシップはコロナ禍において引き受け企業が減少しているが、担当教員とキャリアサポートセンターが受入れ企業開拓に注力し今後も継続する計画である。地域貢献関係は、地域イベント中止が続く中、縮小はやむを得ないが、「ささはたまちのお手伝いマネージャー」への参加等コロナ禍での新しい地域貢献活動を工夫している。同時に、その会場で配布して人気がある「四万十新聞バッグ」の制作により地域住民に貢献したい。

<生活科学専攻養護教諭コース・専攻科養護教諭専攻>

養護教諭に必要とされる資質・能力や実践力を磨くために現場から学ぶことを重視し、授業以外に渋谷区の教育委員会と連携した区立小・中学校でのボランティア活動、地域と連携した子ども食堂や障がい者施設などでのボランティア活動を積極的に取り入れる。教育課程では、文部科学省の規定を上回る独自科目を設定し体験活動や演習を充実させ、一人職種である養護教諭が現場に出てすぐに仕事ができるような実践力をつけることを目指す。採用試験対策やリカレント教育にも力を入れ、卒業生を対象にした教育も継続して実施する。専攻科においては、さらに学びを深めたいという学生のためにI種免許の取得と合わせて、養護教諭として仕事をするにあたり自らの課題解決に向けて追究できるような研究活動にも力を入れた教育活動を推進していく。

<食物栄養専攻>

2021年度の事業計画を継続し、給食管理実習(校外実習)の学習成果を良好に獲得するため、校外実習の事前・事後指導の充実を図る。特に教員と学生および学生間のコ

コミュニケーションがとれる環境をつくり、学生個々が実習における学習成果を確実に獲得する。また、校外実習先の担当者との連絡を密接にとり、実習環境の充実を図る。総合演習においては将来栄養士として仕事に就くための心構えおよび専門知識を習得するようにする。2022年度も、就職、進学において大変良好な結果であった。2021年度もキャリアサポートセンターと常に連絡をとり、学生面談を通して就職・進学活動を支援する。学生が取得した資格および習得した専門知識を活かした進路に進めるようにする。加えて、教員は、必要に応じて補習等の学習支援を行う。

②こども教育学科

昨年度に引き続き学生の現場対応力・実践力強化を重点課題とし、具体的対応としては①渋谷区教育委員会および子ども家庭部の協力による幼稚園・保育所での一日参加実習での事前指導とボランティア活動への参加、②帝京こども教育研究会（年2回実施）（講演や帝京グループ4幼稚園との研究交流）の運営と参加、③授業および空きコマ時間を利用した帝京めぐみ幼稚園における体験実習、④キャリアサポートセンターと連携した公務員試験および4年制大学編入試験受験指導の強化、⑤独自科目「専攻演習」等における多様な学習（学外学習、学科教員による特別学習等）の積極的導入などの実施を図る。

③ライフケア学科

<臨床検査専攻>

2021年度入学生は前年度の87名から半数以下の42名となった。2022年度からの新カリキュラムも考慮に入れながら丁寧に指導を行った結果、37名が進級するという例年と比較して3割近く的大幅アップにつながった。しかしながら、32.4%は1年科目を持ち越しての進級となったため、春休みと2年前期の指導が重要となってくる。3年生においては全員卒業、国家試験の合格率は89.5%の見込みで前年度の94.7%から5.2%ダウンとなったが、国家試験の難易度が科目によってかなり上がっていたこともあり妥当な数字といえる。また前年度に続き東京都職員3名採用が決定した。2022年度も2021年度に引き続き初年度初期の指導を強化し、早い時期からの学習習慣の定着を目指す。専任担当の科目においては、小テストを実施し毎回の学習状況を把握していくことで学習が追いついていない学生に対応していく。新カリキュラムでは1年前期から実習を組み込むなど、学生がより早い時期から興味をもって学習できるものに改善した。2年生においては、講義内容の深い理解と実習を両立できるような指導、3年生においては早い時期からの国家試験対策で全員の合格を目指し、履歴書や小論文の指導など就職活動に役立つサポートをしていく。

<専攻科臨床工学専攻>

臨床工学専攻では、医学、工学の専門知識、技術を修得できるよう授業の充実化を図り、最終目的である臨床工学技士国家試験の合格を目指す。国家試験対策の一つである学内模擬試験（5回開催）では出題形式を再編し、国家試験問題の出題傾向を考慮して作成する。さらに不正解箇所について振り返りを行い、理解を深める。また、チューター制による学習指導、生活指導、就職指導など個々に応じた、きめ細かい学

生指導・支援を継続し、全員修了を目指す。臨床工学技士カリキュラム改正により 3 年後総単位数が 8 単位引き上げられるため、科目、年間授業計画等について検討を開始する。学生募集面においては、引き続き医用系学科設置の大学、臨床検査養成所等へ臨床工学技士を紹介する等の広報活動を行っていく。

＜柔道整復専攻＞

社会に必要とされる「治す力」を備えた柔道整復師の養成を目標に教育を行っていく。具体的対応としては 1 年次の早い時期に社会における柔道整復師の役割、実際の仕事内容の具体例を挙げて仕事への理解とモチベーションアップを図る。また、医学における基礎学力の要である「解剖学」については該当教科のみならず他の基礎教科と連携を取りつつ基礎学力の向上に努める。2 年次からは実際の治療を想定した実技・実習教科の教員と臨床実習担当の教員が密に連携を図り、より実践的な知識と技術の習得を目指す。3 年次には客観的能力審査を実施し、実学の集大成として、実際の患者対応を想定した「医療面接、診断、治療計画、治療の実施、予後の管理」能力を評価する。また、国家試験に備えて 2 年次から実力試験を実施し、個々の学生の理解度の低い教科の把握、その後の個別指導につなげ、3 年次に備える。3 年次には個々のレベルに応じた学力別指導を行う。具体的には学力別班編制、チューター制の実施、それらを踏まえた授業外補講の実施を予定している。

④通信教育課程

説明会を通じて学生募集活動を行っていく。就職希望者に対する情報提供、フォロー体制を強化する。入学オリエンテーションの充実を図るとともに、在校生に対して、学生便覧、サブテキスト、帝短通信・担任等を通じてレポート作成のポイントや注意点等への学習指導を充実させる。

(2) 帝京八王子中学・高等学校

知・徳・体の全人教育を、生徒の個性と発達段階に即して行い、健全な育成を期することを教育目標とする。努力をすべての礎として、教育目標達成の手段として校訓『礼儀・努力・誠実』を定め、入学した生徒が一人の例外もなく大きな成長を遂げて卒業し、更に希望進路を実現できるよう、面倒見よく愛情に裏打ちされた厳しさの中にも暖かさを持った教育・指導・助言を行う。

中学校では、スコラ手帳を活用しての PDCA に取り組み、具体的には「書く力」・「時間の有効活用」・「考える力」・「自己管理の徹底」の養成に取り組んでいく。また、読書を推進する独自プログラムを取り入れ、「読解力」や「表現力」の育成に力を入れていく。

高等学校では、2022 年度より 4 コース（国際文化・言語文化・人文社会・科学探究）を設け、それぞれの特色を活かしたカリキュラムを実践していく。総合的な探求の時間を利用し、生徒自身がそれぞれのコース紹介動画を制作することにより、「想像力」・「表現力」など、自分の頭で考え行動する能力の向上をはかる。

生徒を取り巻く環境の国際化への対応は、語学研修だけでなく、実用英語検定受験

必須化、短期ターム留学の推進、海外短期留学生受け入れ等を進め、併せて本校の国際理解教育を広く周知させる広報活動にも工夫改善を行うことで、本校の教育に適性を持つ生徒のより多くの入学を実現させる。

(3) 帝京めぐみ幼稚園

遊びを中心とした生活を通して、一人ひとりに応じた総合的な指導を行う。そのためには、幼児理解に基づいた計画的な環境の構成によって幼児が主体的に取り組み、遊びへの意欲を持てるようにする。具体的には、身近な動物への触れ合いを通して「思いやり」「優しさ」の心を育み、命の大切さを学ぶ「動物介在教育」を引き続き実施する。さらに、短大キャンパスを利用した活動や自然体験、花壇や畑作業、地域の小中学生の職場体験受入や地域の母子を対象に子育て支援活動(ふれあいタイム)を実施する。このような幼稚園内外の様々な人々とのかかわりなど、社会体験、直接体験のできる場を取り入れる。

(4) 帝京にしき幼稚園

「よくみる・よくきく・よくする」をモットーに、遊びを中心にしながら多様な体験を通して、個を発揮し礼儀正しく思いやりのある子どもの育成を目指す。そのために幼児理解を基盤として計画的に環境を構成し、指導内容の充実を図る。具体的には、指導計画を立案し、評価の充実を図り、幼児の発達を見通してそれぞれの時期に必要な教育内容を明らかにした計画性のある指導を行う。また、園行事や日常の活動を通して造形、身体、音楽などを表現する楽しさや感動する心を育てる。

3. 教育環境の整備

帝京短期大学では、コロナ禍において教育活動を継続できるよう遠隔授業に対応できる基盤整備に取り組み、クラウド基盤 Microsoft 365 及び Teams の導入や、授業配信に対応できる整備を実施してきた。2021 年度には、整備してきた基盤を活用し、積極利用するために分散授業の実施や教職実践演習で使用できる電子黒板機能付きプロジェクタや Chromebook や Windows タブレットを配備した 2 教室の整備とラーニングコモンズ内の設備更新を実施し、iPad を導入した。この他、学内無線 LAN 基盤整備も行い eduroam JP へ参加した。このことで本学学生及び教職員は eduroam に対応した学外無線 LAN も使用が可能となった。

2022 年度は、半導体不足の影響により整備を延期した基幹ネットワークの整備を実施する。これは、学術情報ネットワーク SINET が SINET6 にバージョンアップすることに対応するものである。今後 5 年間のネットワークトラフィックを見越して、接続点となるデータセンターを新設し、高速化かつ高信頼化整備の実施を行う。この他に、学内に存在する各種システムや講義室の教室設備の耐用期限と優先度に応じた更新、構築した学内無線 LAN の使用範囲拡大を検討する。

帝京八王子中学・高等学校では、2014年6月に竣工した、新体育館「蔦永館」が日々の体育の授業やクラブ活動はもちろん、さまざまな講演会、吹奏楽部、ダンス部の発表会など多目的に利用されており、保護者や一般来場者にも教育環境のアピールを行っている。また、教職員の仕事の効率化と業務改善を図り、2021年度より運用を開始した新教務システムのさらなる効率アップを目指し、帝京短期大学ともシステムの連携を強化しつつGIGAスクール構想対応や学内ネットワーク構築を目指す。

帝京めぐみ幼稚園ならびに帝京にしき幼稚園においては、各保育室の保育環境、備品、園庭の整備等、園児の健康により配慮した保育環境を整える。また、帝京にしき幼稚園では第二園舎用の土地・建物を購入し保育に活用していく。昨年度実施できなかった両幼稚園の情報発信強化のため、ホームページを両幼稚園で速やかに更新することができる体制に切り替える。園内ICT環境の整備については短期大学システム統括部門との連携を強化する。

4. 学生支援の充実（帝京短期大学）

学生の心身の健康問題の対応・学習支援・進路選択をトータルで支援していけるよう、各部署の教職員で構成された学生相談支援委員会で学生情報の共有を図り適切な支援につなげていく。また、保健室に複数の養護教諭を配置し担任との連携を図り、個々の学生の対応を丁寧に行うことで、心身の健康問題の早期発見や対応につなげていく。専門的な支援が必要な学生に対しては、帝京平成大学臨床心理センターでカウンセリングを受けられるよう連携を図る。さらに、保健だよりの定期発行を行い、健康への意識向上を図る。学習面については、課題を抱える学生が多く、個別の学習支援を考えていく。様々な背景を抱える学生への対応と適切な支援を提供するためにも、全教職員を対象とした研修を継続的に実施していく。

2021年度はコロナ禍ではあるが一定程度の就職率を確保。2022年度も就職対策委員会の担当教員との連携のもと学生をこまめにフォローし実就職率85%以上を目指す。キャリアサポートセンター職員が適宜学生と面談し当該の就職・進学進捗状況をフォローしていく。また、授業(社会人入門セミナー・キャリアデザインⅠ・Ⅱ)、キャリアガイダンスによる就職実践力の習得、新卒応援ハローワーク等との連携、履歴書添削、面接練習等の就職指導の充実、学内合同企業説明会実施等により就職率・実就職率の向上を目指していく。

5. 学生募集計画（帝京短期大学）

本学ではアドミッションポリシーに合致した学生を受入れるため、10月から3月にわたり総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜、社会人選抜など多様な入試制度とともに大学入学共通テスト利用入試においても募集していった。2022年度入試では選抜方法の一部見直しを行った。即ち、総合型選抜の選考方法を筆記型から面接型に変更し、またⅠ期ではエントリー面接を導入した。2023年度入試も同様の選抜方法を行う予定である。対面イベントとしては5月～9月にかけてオープンキャンパス、8月に入

試説明会を併行して実施する。3月には高校2年生を対象とした春のオープンキャンパスを実施し、次年度のイベントに繋げていく。また、入試広報課職員のみならず教員も高校訪問を行い、本学の教育内容や学習成果を説明するとともに募集活動に努めている。

ホームページにおいてはこまめな情報の更新に努め、パソコンサイトはもとよりスマートフォンユーザーに対しても閲覧しやすい画面構成にしている。さらに、見学者や電話やLINEでの問い合わせに対し、懇切丁寧な対応をすることで志願者の増加につなげていく。また、大学パンフレットについては、制作会社から企画を募りパンフレットを刷新することとしている。

6. 地域社会への貢献（帝京短期大学）

渋谷区とのS-SAP協定を軸として展開しているが、コロナ禍によって活動が中止されている状況である。渋谷区の公開講座事業であるハチ公大学も現在中断しているが今後も協力していく。「ささはたっこ(こどもテーブル)」、「近隣地域美化活動」、「ササハタまちのお手伝いマネージャー(街マネ)」などはコロナ禍では感染状況に応じてわずかながら実施している。「ささはたっこ」では渋谷区包括支援センター敷地で「こどもテーブルガーデン」を設置し、今後も状況に応じて開催する計画である。「街マネ」では高齢者スマホ操作支援や高齢者お買い物ツアーを実施でき、今後も開催を期待されている。長年積み重ねてきた「地域のイベント支援(渋谷フェスティバル参加など)」も催されれば継続する。これらの事業展開によって学生の社会力と就職力の向上に繋げていく。

7. 自己点検・評価（帝京短期大学）

2022年度の自己点検・評価は、2021年度同様教職員全員が自己点検・評価PDCAのシートを活用して行う。加えて各委員会へもPDCAシートを用いて自己点検・評価を実施し、検証していく。課題については、各部署において改善を検討し、解決を図る。

学習成果報告書は、2018年度より全科目について実施しているが、2022年度も継続して学習成果報告書の作成を全教員へ依頼し、授業改善に繋げ、学生の学習成果の獲得を向上させる。初任者に対しては、本学の自己点検・評価についての説明会を実施する。

8. 2022年度予算の概要

(1) 収入

各学校・幼稚園ともに、入学者数、在学学生数減により前年度予算比減収を見込む。学校法人全体で学納金は前年度予算比減少の見込み。

(2) 支出

人件費抑制をはじめ各学校・幼稚園とも経費削減に努め、前年度予算比支出減を

見込む。

(3) 事業活動収支差額

経費削減に努めるが収入減少を補えず、事業活動収支差額は学校法人全体で減少の見込みである。

以 上